

あなたもしなさい

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-10-08 キーワード (Ja): キーワード (En): Tohoku Gakuin University 作成者: 佐々木, 哲夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/24741

「あなたもしなさい」

宗 教 部 長 佐々木 哲 夫

ルカによる福音書、一〇章二五〜三七節

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、 27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」 29 しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。 30 イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った、 31 ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。 32 同じように、レビ人もその場所に行って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。 33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、 34 近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、

包帯ほうたいをして、自分じぶんのろばに乗せ、宿屋やどやに連れて行って介抱かいほうした。35 そして、翌日よくじつになると、デナリオン銀貨ぎんか二枚まいを取り出し、宿屋やどやの主人しゅじんに渡して言った。『この人を介抱かいほうしてください。費用ひようがもっとかかったら、帰りがけに払います。』36 さて、あなたはこの三人にんの中で、だれが追おいはぎに襲おそわれた人の隣人りんじんになったと思うか。』37 律法りっぽうの専門家せんもんかは言った。「その人を助たすけた人ひとです。」そこで、イエスは言いわれた。「行いって、あなたも同じおなじようにしなさい。」

エルサレムからエリコへ下ってゆく道のことです。その道は、無味乾燥の大地が続く荒れ野の道です。追い剥ぎに襲われても不思議ではない場所でした。半殺しの目に遭った旅人は、恐らく、道端に倒れたまま気を失っていたのでしょう。死んだように横たわっていました。そこを通りかかったのが、ユダヤの祭司とレビ人でした。両者とも、神殿に仕えるユダヤ教の専門家です。彼らは、倒れていた旅人を避け、道の反対側を通り、この場をやり過ぎたのです。恐らく、両者の頭の中を駆け巡ったことは、死体に触れると汚れてしまうという旧約聖書の言葉だったと思われます。例えば「野外で剣で殺された者や死体、人骨や墓に触れた者はすべて、七日の間汚れる」(民数一九・一六)からです。清めの儀式ができるのはエルサレムの聖所であり、遠ざかる旅の途中の祭司とレビ人にとって、死体らしきものに近づくことは出来ないことでした。彼らは、倒れていた旅人の隣人になり得なかったのです。隣人になったのは、ユダヤ人から異端者として忌み嫌きらわられていたサ

マリア人でした。ユダヤ人にとっては、想像すら出来ない展開でした。このサマリア人は、労働賃金二日分に相当するデナリオン銀貨二枚を払ったのですから、宿屋の主人に対しても、理にかなった対応をしています。非難されるところのない振る舞いでした。

さて、この話は、「さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」との質問で閉じられています。祭司かレビ人かサマリア人かを、問う質問です。おそらく、イエス・キリストは、敢えて、この喩えに律法学者を登場させなかったのでしょうか。なぜなら、隣人とは誰かという質問を投げ掛けた相手が律法学者だったからです。律法の専門家は、質問に対し即座に「その人を助けた人です」と答えています。サマリア人と名指しせず「その人を助けた人」と表現したところに、サマリア人差別の根深さが窺えますが、それはさておき、彼の答えは正解でした。

本日の聖書個所の最初を見ますと、事の始まりは「律法の専門家がイエスを試そうとした」ことでした。イエスの弟子たちは、イエスが救い主であると民に伝えていました。律法学者には、それがユダヤ伝統からの逸脱であると思われるのです。ですから試そうとして「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と質問したのです。イエス・キリストの定める「神の国への入会資格」が、ユダヤ教の伝統に納まるものならばいいのですが、外れたと判断されるならば、イエス・キリストと彼の弟子たちにもサマリア人と同じレッテルが貼られるということでした。

この質問に対し、イエス・キリストは「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と問い返します。律法の専門家ですから、彼は即答します。申命記六章五節の言葉「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」を引用します。しかも、「思いを尽くして」を付け加え、まるで、律法学者が理性をもっても主を愛していることを自慢するかのような答えでした。博学な律法学者は、さらにもう一つ、レビ記の一九章一八節の後半部「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」を付け加えたのです。それは百点満点の答えでした。イエス・キリストは言います。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる」。

ところが、律法学者は、イエス・キリストの言葉「それを実行しなさい」にさらにつけ込むスキを見い出しました。当時、イエス・キリストは、悔い改めた罪人だけでなく、悔い改める前の罪人にも神の国への招待を告げていたのです。例えば、罪人として冷遇されていたザアカイに、イエス・キリストは、親しく言葉を掛けていたのです。ユダヤ人の伝統によるならば隣人と考えることのない人々に、イエス・キリストは、神の国への招きを告げていたのです。律法学者は、自分の正しいことを示そうとして「では、わたしの隣人とは誰ですか」と質問を投げ返したのです。もし、イエス・キリストが、罪人も隣人の枠にいれるような答えをしようものならば、モーセの契約を反古にする異端者と断定したことでしょう。しかし、イエス・キリストは、その質問に直接的に答えることなく、たとえ話を語り始めたのです。そして、「隣人とは誰か」について「あなたはこの

三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」と尋ねたのです。律法の専門家家は「その人を助けた人が隣人である」と答えました。それもまた正解でした。イエス・キリストは、再度語りかけます。「行って、あなたも同じようにしなさい」。

さて、イエス・キリストは、喩え話によって語りました。ですから「行って、あなたも同じようにしなさい」と命じる時、それは、道端にうずくまる旅人に親切にするということに限定されたものではなく、聞く者一人一人の判断に委ねられたものとして語られました。また、律法の専門家との対話へと展開するに到り、喩え話の真意が、私たちに對しても顕にされたのです。すなわち、「助ける」ことから「隣人は誰か」との課題に敷衍されたのです。それは、イエス・キリストの言葉「行って、あなたも同じようにしなさい」が今日の私たちにも語りかけられた瞬間でもあります。私たちも自問自答することでしょう。誰にどのようなことをすれば「同じようにすることになるのか」と。実行するまでに、考えるべき様々の問いが出てきます。それを自問自答している間に、いつの間にか、私たちも、道の反対側を通り過ぎるのではないかと考えさせられます。ところで、私たちは、祭司でもなく、レビ人でもなく、ましてや、良きサマリヤ人でもなく、あの倒れていた旅人であったとしたらばどうでしょうか。想像もつかない良き行いをした良きサマリヤ人に関し、イエス・キリストをおいて、それに該当する人物を挙げることは困難です。サマリヤ人の喩えには、自らの身を捧げ、倒れた者のための救いを成し遂げられた十字架のイエス・キリスト自身が示され

ていたのです。であるならば、そのイエス・キリストに助けられた者は、「行って、あなたも同じようにしなさい」の言葉に答え得る手がかりを、自らの経験の中に持っている者でもあるのです。「あなたも同じようにしなさい」の言葉は、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイ七・一二)の言葉と重なりあって、私たちのうちに響いてくるのです。